

2025年6月8日 ペンテコステ礼拝 使徒2:14-21 説教「聖霊降臨」

今日はペンテコステ、聖霊降臨日です。ペンテコステは教会の誕生日でもあります。そのことを覚えつつ、使徒2:14-21から「聖霊降臨」と題して2つの点のみことばを取り次ぎます。

1. 聖霊の注ぎ 14-18

イエスは私たちの罪のために十字架で死に、三日目によみがえられました。私たちはイエスの復活を祝うイースターを4/20に持ちました。イエスは40日間弟子たちに現れて、ご自分が生きておられることを示されました。そして40日に弟子たちが見ている前で、オリーブ山から天に昇られました。それから10日後、イエスの復活から50日目のことです。その日は五旬節、ペンテコステと呼ばれるユダヤ教の収穫祭でした。そのため、エルサレムにはペンテコステを祝うために、ローマ帝国各地からユダヤ人が集まっていました。また、エルサレムではイエスの弟子たち120人ほども同じ場所に集まっていました。その時に弟子たちに聖霊が注がれたのです。

2:2-4【すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、彼らが座っていた家全体に響き渡った。また、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった。すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろな言葉で話し始めた。】エルサレムにいた人々は、弟子たちが自分たちの地域の言葉で、神の大きなみわざを語るのを聞いて驚きました。また、ある人たちは「彼らは新しいぶどう酒に酔っているのだ」と言い、あざけりました。そこでペテロが、何が起きたのかを伝えるために、語り始めたのが今日の箇所です。

14-16【14 ペテロは十一人とともに立って、声を張り上げ、人々に語りかけた。「ユダヤの皆さん、ならびにエルサレムに住むすべての皆さん、あなたがたにこのことを知っていただきたい。私のことばに耳を傾けていただきたい。15 今は朝の九時ですから、この人たちは、あなたがたが思っているように酔っているではありません。16 これは、預言者ヨエルによって語られたことです。」当時のユダヤ人の習慣ではぶどう酒を飲むのは夕食時でした。ですから朝に飲んで酔っているのではないとまず伝えました。そして次にこの出来事は預言者ヨエルの預言が成就したのだと言って、ヨエル書2:28-32を引用して語りました。

17-18【17 神は言われる。終わりの日に、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。18 その日わたしは、わたしのしもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ。すると彼らは預言する。】まず「神は言われる」と言って、預言者ヨエルの預言は、神が言われたことだと伝えます。次に「終わりの日に」とあります。ヨエル書では「その後」となっていますが、ペテロは旧約の預言はすでに成就し、終わりの日に入っているので、「終わりの日に」と言いました。「終わりの日」は原語では「終わりの日々」と複数形になっているので一定の期間、終わりの時代のことです。イエスがこの世に来られた時、即ちイエスの初臨から終わりの日が始まりました。そしてイエスが再び来られる時、即ちイエスの再臨によって終わりの日が終了します。

そしてこの終わりの日に、神はすべての人に神の霊である聖霊を注ぐと約束され、今その約束が成就したとペテロは言ったのです。旧約時代は、預言者などの特定な人に、特定の期間だけ聖霊がとどまりました。荒野の旅をしている時、宿営にいた2人の長老に聖霊がとどまり預言をしたことがありました。その時、ヨシュアがモーセの所に行き「彼らをやめさせてください」と言いました。するとモーセは申命記11:29でこう言いました。「主の民がみな、預言者となり、主から彼らの上にご自分の霊を与えられるとよいのに。」ヨエルはやがてモーセが願ったことが実現すると預言しました。そしてその預言がペンテコステの日に成就したのです。

聖霊が注がれる「すべての人」とは、イエスを救い主と信じて救われたすべての人のことです。「息子、娘、青年、老人、しもべ、はしため」など年齢や身分に関係なく、イエスを信じるすべての者に聖霊が注がれるのです。また「注がれる」とは、上から即ち神が人の心に与えて満たすということです。聖霊を注がれた人は預言をします。「あなたがたの息子や娘は預言し」18節にも「すると彼らは預言する」とあります。預言とは神のことばを預かるという意味で、神のことばを伝えることです。この日も聖霊に満たされた120人ほどが他国の言葉で語ったのは、11節にあるように「神の大きなみわざ」です。神の大きなみわざとは、ペテロがこの後説教するイエスの死と復活の出来事です。

先ほど歌った1:8には「しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります」とあります。聖霊が注がれるのは牧師や教師という一部の人ではありません。すべてのクリスチャンです。すべてのクリスチャンに聖霊が注がれました。ですからすべてのクリスチャンは、聖霊の力を受けて、イエスの証人として福音宣教に遣わされているのです。

また「青年は幻を見、老人は夢を見る」とあります。この幻や夢は単なる自己実現のための夢や幻ではなく、神のことばを土台とした幻や夢であり、神の栄光を表すための幻や夢です。伝道者の書12章に【あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ】とあります。若い日にイエスを信じ、聖霊を受けた青年は、これからの人生をどのように神のために生きていけ

ばよいかという幻を神からいただくことができます。そして主の助けをいただいて、その幻を実現し、神に用いられる生涯を歩むことができます。

また老人は夢を見ます。先ほどの伝道者の書の続きには【わざわいの日が来ないうちに、また「何の喜びもない」と言う年月が近づく前に】とあります。これは神を信じずに老人になることです。その人は老人になった時、「何の喜びもない」と言って、これから先の人生に夢も希望も持てなくなるのです。しかしクリスチャンの老人は違います。これからの残りの人生をどのように神のために生きていくかという夢を神からいただき、夢の実現に向けて最後まで前進していくことができるのです。老いも若きも聖霊の力をいただいて福音を伝えましょう。また生涯神のために生きる幻と夢を神に祈っていただき、実現を目指して前進しましょう。

2. 救いの時代 19-21

ヨエルの預言の後半は、終わりの日の最後の期間に起こる出来事です。それは今黙示録で学んでいる出来事と重なります。19-20【19 また、わたしは上は天に不思議を、下は地にしるしを現れさせる。それは血と火と立ち上る煙。20 主の大いなる輝かしい日が来る前に、太陽は闇に、月は血に変わる。】黙示録で見ているように、終末時代には天変地異が起こり、戦争、飢饉、疫病、地震などの地上の災いと、さらに主の再臨前には太陽は闇に、月も光を放たず血のように暗くなり、天の星も落ちます。戦争は人間の罪によって引き起こされます。現在も世界には戦争や紛争が続く中で、一日も早い停戦と平和の訪れを私たちは祈っています。また自然界も人間の罪の影響を受けてしまいました。自然は私たちに多くの恵みをもたらす一方で、災いももたらします。「主の大いなる輝かしい日」はヨエル書では「主の大いなる恐るべき日」となっています。ペテロは主の恐るべきさばきの日は、主イエスの輝かしい再臨の日であると言っています。

そして21節で終わりの日の希望を伝えています。【21 しかし、主の御名を呼び求める者はみな救われる。】終わりの日には様々な災いが起こります。と同時に、聖霊がすべての信者に注がれる時代です。終わりの日に起こる災いは、主イエスの再臨とそれに続く最後の審判の前の警告的さばきです。この警告的さばきは、私たちに悔い改めて、主イエスを信じるようにとの神の招きでもあります。ですから、この終わりの日の期間に、主の御名を呼び求める者はみな救われるのです。そして主の御名を呼び求めて救われる人が起こされるように、神は私たちに聖霊の力を与えて、イエスの証人としてこの世に遣わしておられるのです。

【主の御名を呼び求める者はみな救われる】はローマ 10:13 にも記されています。ローマ書ではその後こう続きます。14-15【しかし、信じたことのない方を、どのようにして呼び求めるのでしょうか。聞いたことのない方を、どのようにして信じるのでしょうか。宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか。遣わされることがなければ、どのようにして宣べ伝えるのでしょうか。「なんと美しいことか、良い知らせを伝える人たちの足は」と書いてあるようにです。】

人が主の御名を呼び求めて救われるためには、神から遣わされた人が福音を宣べ伝え、その人から福音を聞き、信じる必要があるのです。そして私たちこそ福音を宣べ伝えるために神から遣わされている人なのです。福音を宣べ伝えるために、神は私たちに聖霊を注いでくださいました。イエスを救い主と信じている人には、みな聖霊が注がれています。そして聖霊は私たちに力を与えて、イエスの証人として、まだ福音を聞いたことのない人の所に遣わしておられるのです。

初代教会は聖霊の力によって福音を伝え、福音を聞いた多くの人が主の御名を呼び求めて救われ、聖霊を受けました。さらにその人たちが福音を伝え、福音を聞いた別の人たちが主の御名を呼び求めて救われました。さらに、その人たちも聖霊に満たされて、福音を伝えていきました。こうして迫害にあいながらも、イエスを信じる人はどんどん増えていき、エルサレム教会誕生を皮切りに、各地に教会が建てられていきました。

先週は40周年記念礼拝を持ち、40年の恵みを共に振り返り、感謝の時を持ちました。私たちにとって、2000年前の教会の誕生を覚えることは、40年前の波崎キリスト教会の誕生を覚えることにも繋がります。その時のメンバーは、神からこの地に教会を建てるといふ夢と幻を神から与えられ、その幻が主にあって実現し、教会が建てられました。そして聖霊の力によって伝道し、教会に加わる人たちが起こされました。そしてともに伝道し、奉仕をし、献金をし、会堂を建て、教会形成に励みました。当時は若かったので「青年は幻を見る」ことができたと思うかもしれませんが。けれども40年後の今も「老人は夢を見る」とあります。さらに今の若い世代は「青年は幻を見る」ことができるのです。夢も幻も同じ神から与えられるビジョンです。神は若者にも高齢者にも、それぞれができる奉仕を備えておられます。

40周年の今年、私たち一人ひとりに聖霊が注がれていることを覚え、「すると彼らは預言する」とあるように、福音宣教に励みましょう。さらに一人ひとりが神のために生きる幻と夢をもって、神の栄光のための人生を歩みましょう。